

会議録

会議の名称	第1回新城市多文化共生推進プラン（仮称）策定検討会議
開催日時	令和5年7月25日（火） 午前9時30分から午前11時30分まで
開催場所	新城市役所本庁舎3階災害対策本部室3
会議の次第	1 あいさつ 2 自己紹介 3 委員長・委員長代理選任 4 議題 (1) 新城市多文化共生推進プラン（仮称）の趣旨・背景等について (2) プランに組み込む取組について 5 その他 (1) 今後の会議日程について
会議録の作成方法	要点筆記
出席委員	長尾晴香委員長、本多尚子委員長代理、小川順子委員、宮下利夫委員、戸田由美子委員、河合恵元委員、白井雅人委員、仲西ハルミ委員
欠席委員	マスコアドリアナ委員

1 あいさつ

市民自治推進課長から新城市多文化共生推進プラン（仮称）（以下「プラン」という。）作成にあたってのあいさつがされた。

2 自己紹介

第1回目であるため、名簿順に自己紹介を行った。

3 委員長・委員長代理選任

委員長には、推薦により長尾晴香委員が選任され、委員長の指名により本多尚子委員が委員長代理に選任された。その後、委員長からあいさつがされた。

4 議題

(1) 新城市多文化共生推進プラン（仮称）の趣旨・背景等について

《事務局説明》

プラン策定の趣旨・背景 総務省が定義している多文化共生の定義、新城市での多文化共生の必要性、多文化共生の意義、多文化共生推進にあたっての市町村の役割、新城市のこれまでの多文化共生推進と今後等について説明した。
新城市の外国人の現状 新城市の外国人住民の現状について、新城市における外国人人口の推移、外国人人口総数の総人口に占める比率、国籍別外国人人口の推移・比率、在留資格別外国人人口の推移・比率、年齢別外国人人口比率の推移、地域自治区別外国人人口、行政区別外国人人口等について説明した。
課題・ニーズ等 令和4年度実施の新城市外国人市民実態調査及び令和5年度実施の多文化共生に係る日本人市民意識調査等から見える新城市の課題・ニーズ等について説明した。
基本理念 国籍・民族に関わらず、日本人も外国人も「地域の一員」として認め合い、共に生きていくまちを目指すという理念について、その文例の候補案と共に説明をした。
プランの3本柱 コミュニケーション支援、生活支援、意識啓発と社会参画支援の3本柱について説明した。
プランの計画期間 令和6年度から令和10年度までの5年間の計画期間となること等を説明した。
プランの骨子案 多文化共生の推進に係る国の方向性、県の方向性、第2次新城市総合計画、新城市の課題・ニーズ等から見える視点を踏まえた骨子案について説明した。

《質疑応答・意見交換》

委員長	この会議で決めていくということはしないが、ぜひ皆さんの立場から色々なご意見をいただき、ざっくばらんな意見交換をしていきたい。今の事務局の説明等について質問・意見はあるか。
委員	<p>外国人市民実態調査の結果から見える課題・ニーズ等に、「市役所・学校・こども園等からの書類がわからない」とある。自分の子どもがこども園に入っているが、新城市のこども園では「きずなネット」というアプリを使用して保護者との情報共有がされている。アプリ内で自動翻訳機能を使用して多言語に翻訳することができる。このアプリを活用して、外国人向けの情報等（日本の文化、新城市の観光・学校・生活ルール等）を発信できるとよい。</p> <p>また、自分は日本生まれ日本育ちで、生まれてから日本語で話しており、正直なところ、外国人に対して、日本に来たのなら日本のルールを守ってほしい、日本語を自分で学んで頑張してほしいという想いがあった。ただ、外国人の両親とちゃんと話ができるようになるために、14歳のときにスペイン語とポルトガル語を覚えたことをきっかけに、両親や周りのペルー人やブラジル人の必死な気持ちがとてもよくわかるようになった。彼らが来日する際、彼ら自身は日本に否定的な気持ちを持っていない。日本は安全でマナーもしっかりしていて、ごみも拾うし掃除を大事にするといったようなことを頭に入れて来る。しかし、地域の日本人等が最初から受入れを拒否するような姿勢でいると、外国人は萎縮してしまうし、学ぶ気もなくなる。お金を稼いだらそそくさと帰ってしまおうという気持ちになる。</p>
委員長	きずなネットはどこが発信しているものなのか。
事務局	市が発信している。
委員長	<p>自動翻訳機能であるとか、アプリで来た文章をコピーしてそのままスマートフォンで翻訳できるというのは、確かに時代に合った情報提供のあり方かと思う。</p> <p>市がすでにやっていることであり、市のシステムとして何か可能な方法があるのであれば、他にも展開していくということはあるかもしれない。</p>
委員	<p>基本理念に関して候補案が出ていたが、個人的には「地域の一員として認め合う その多様性がしんしろを創る」を推したい。お互いに認め合っていきたいという姿勢が基本理念に入っていくことが大事であり、また、その多様性がよりよい新城を創っていくことにつながるということが基本理念ではっきりしていることが望ましいと考える。</p> <p>また、1点アイデアとして、神奈川県の実例で多言語問診票というもの</p>

	<p>がある。ウェブサイト上で、色々な言語で視覚的にわかりやすいアイコン等が同じ配置で作られており、ユニバーサルデザインとなっている。自分の体調が悪いときに、何科に行けばよいのかが視覚的にわかりやすかったり、それに対応する問診票を多言語で表示させたりすることができる。先ほどアプリという話があったが、これについてもウェブで比較的アクセスしやすく情報が取れる。</p> <p>多言語化された資料等が書類としてできていても、それがどこにあるのかわからなければ利用できない。そういった情報にアクセスしやすくする工夫が必要。</p>
委員長	<p>紹介のあった多言語問診票等、他市で行われているものも積極的に活用しながら、多言語でのサポート、情報提供というところをしてみはどうかという提案であった。</p> <p>また、基本理念に関して事務局から候補案が三つ出ているうち、認め合うという文言が入っていること等から三つ目がよいのではないかという意見が出た。この基本理念について、取り入れた方がよい視点や案等の意見はあるか。</p>
委員	<p>新城らしさがほしいため、宗教という言葉を入れてはどうか。東三河の他市ではすでにプランを策定しており、その結果どのようにそれが動いて、外国人にとって、日本人にとってプラスになっているのかというのがそれぞれあると思う。新城市は田舎なので、日本どこでも一緒ではない。新城らしらどこかで出して、それを売りにして外国人にもっと来てもらう形にできればよい。</p>
委員長	<p>新城らしさを入れていくことで言うと、各委員の話を聞いていると地域の中で距離感が近く、住民が地域の一員になることに関して真摯に向き合っているような印象がある。</p> <p>候補案の三つともそういった要素は盛り込まれているかと思う。基本理念はこれから新城市が目指すところを表すものになってくるため、そういった要素が盛り込まれてるとよい。</p>
委員	<p>自分の行政区には外国人がたくさん住んでいるが、そのほとんどがアパート住まい。そのため、区として回覧を回すこともできないし、区のイベントや会合等での交流もない。プランに載るようなものは、外国人住民がどこに住んでいるかに関係なくできるものかと思うが、区としては限度があるように感じる。</p>
委員	<p>外国人にとってのアパート暮らしには、ゴミ出し等の細かいルールは大家さん任せにできるというように楽ができる部分と、地域とのつながりがないため、日本のルール・マナー等を学ぶ機会が減るという部分がある。</p>

	<p>地域とのつながりがないことについては、日本人と外国人の双方にとって、よい面悪い面がそれぞれあると思うが、日本人が減少していて外国人が増加している中で、個人的にはどこの国籍の外国人であっても、日本の良さはわかってもらいたい。日本で住むにあたっての日本ならではのルール・マナー等を転入したときにわかるとよい。</p> <p>外国人の特徴として、各個人・自分を大事にするという部分があるが、日本では共同意識が基本にある。それは日本の素晴らしいところでもあるが、宗教についてはそれは難しい。各国々でそれぞれ宗教があり、それが合う合わないは日本人同士でもあることだが、市がまずそのことを発信すれば、外国人で困っている人たちも声を出しやすくなるのではないか。地域のお祭りについても出てもよいものなのか等もわかる。</p> <p>そういったことでもストレスが蓄積されていってしまうため、発言しやすい場があるとよい。</p>
委員長	<p>既存の区のシステムでは、戸建てで長く地域に住んでいる方が多い中で、地域のルールが自然と共有されてきたが、アパート暮らしの方だと、大家さんが取り仕切るため、アパートの住民はそのルールの存在を知らなかったり、情報が届かないということもある。外国人住民は、地域の行事にどこまで参加するのかという基本的な知識もないということもあるため、地域での交流といったような踏み込んだ形での投げかけはこれから必要になるか。</p> <p>そうすることが、地域の一員として認め合うことにつながる。このプランは日本人にも外国人にも読んでいただくとと思うが、新都市の目指す姿についてそれぞれ読んだときに、そういうことなのかとイメージがつくとよい。</p>
委員	<p>基本理念について、互いに理解し合わないといけない部分があるということをととても感じているため、「地域の一員」という言葉と、「多様性」という言葉が入っている三つ目の候補案がよい。</p> <p>学校現場にいた際、例えばPTAの奉仕作業をする場合、翻訳した文書でもお知らせはするが、地区ごとの参加率を見ていくと、どうしても外国人が集住している地区は参加率が低い。そうすると、日本人は自分たちがこうやって活動してるのに、参加しなくても済んでいくのかという不信感も出てしまう。お互いに理解し合う部分は難しい。</p>
委員	<p>警察的には、事案対応と情報共有という面で、事案対応については日本人も外国人も関係なく、悪い人を捕まえるという目で見て特別扱いはしない。情報共有については、この場であるべく色々なことを伝えたいが、プライベートなこともあるため、なるべく本人の承諾を得ながら伝えていき</p>

	たい。
委員長	どちらかを特別扱いするのではなく、平等な扱いというところが大切か。
委員	<p>基本理念については、候補案の三つ目がよい。大切なキーワードが入っていることと、一般的に「多様性」という言葉も聞くようになったためわかりやすい。</p> <p>全般的には、施策の3本柱は個々のものではなく、つながっているように感じる。自分には子どもがいるが、学校生活をとおして特に感じる。普段の生活で困りごと等があり、親の気持ちが荒れてしまうとその気持ちが子どもに伝わり、子どもも不安になる。その子どもの不安が学校生活にも表れてしまい、他の子どもにも影響を与える。反対に、子どもが安定して学校生活を楽しんで送れているならば、親も安心する。これは外国人にも日本人にも言えること。</p> <p>また、外国人の子どもは日本語で苦労していることが多い分、語学に対する意識がとても高い。英語はすごく得意という子が多く、発音が上手等で日本人の子どもが懂れるということも多い。日本人もそういうよい影響を受け、外国人の子どもと切磋琢磨していき、日本人・外国人共によい人材が生まれてきてよい新城になっていくというのが理想かと思う。</p> <p>よりよい新城にしていくためには、縦割りに進めていくのではなく、総合的にみんなでつながって考えていくことが大切。</p>
委員長	<p>助け合いの仕組みというものができていくとよい。</p> <p>また、基本理念については、候補案の三つ目がよいのではないかという意見が多いように感じる。</p> <p>様々な視点から意見が出たものについて、事務局で検討いただきたい。</p>

(2) プランに組み込む取組について

《事務局説明》

<p>新城市多文化共生推進連絡会議（以下「連絡会議」という。）</p> <p>新城市の多文化共生推進にあたり、関係部署との横断的な連携をより緊密に行うために設置している連絡会議について説明した。</p>
<p>新城市の施策等一覧</p> <p>プランに組み込む施策について連絡会議の構成課に照会し、回答のあった施策及び目標指標をまとめた資料について、主に令和6年度から新規で実施するもの、拡充して実施するものをピックアップして説明した。</p>
<p>他市の施策例</p> <p>新城市を除く東三河各市の多文化共生推進プランに掲載されている施策をまとめた資料について説明した。</p>

《質疑応答・意見交換》

<p>委員</p>	<p>他の市で、就学前事業としてプレスクールを実施しているところもあるが、新城市にもあった方がよいのではないか。入学してすぐが1番不安が強まってしまいがちだと思うが、入学前にそうした関連情報があれば少しでも解消できると思う。</p> <p>また、コミュニケーション支援に関することと言えば、医療・防災等に関する日本語など、命を守る上で重要だけれども難しい日本語が存在するため、そういったシーンに対応できるものも含まれるとよい。地域で生活する上で、日本人と外国人の間に情報格差が生じないようにするための施策の充実が必要と考える。</p> <p>そのほか、多言語化した情報にアクセスしやすいようにする工夫や、多文化共生を推進している地区等の先進事例を積極的に発信できるとよい。</p>
<p>委員長</p>	<p>日本人と外国人の間に情報格差がないようにという視点で、就学前のプレスクールや防災等に関することについて指摘があった。</p> <p>新城市では先日も水害があったが、おそらくこのような災害は今後も起きていくというところで、防災についても連携をしながら行っていく必要があると感じた。</p> <p>プレスクールについては何か意見はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>現時点では、小中学生を対象に行っている日本語初期指導教室「きぼう」について、外国人の転入手続の際に学校教育課に来てもらい、案内をしている。プレスクールに関しては、入学前のことであるためこども未来課とも連携しなければいけない部分となる。必要なことではあると思うが、なかなか実現するのが難しい状態。</p>
<p>委員長</p>	<p>現在実施している日本語初期指導教室については、外国人の転入者にしっかりと情報が行き届き、入室を希望される方は100%入室できているということで、素晴らしいことである。</p> <p>他の委員についても、取組についての意見・質問等はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>現在出ている施策を見ると、膨大な量をこなしていく内容になっているように感じる。もう少し絞り込み、今すぐ実施しなければいけないことと中期・長期で分けて、プランが進んでいる状態が見えるようにしたい。満遍なくやろうとすると、相手になかなか伝わりづらいことがあると思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>このプランが5年の計画ということで、最初の重点取組であるとか、段階的にどういうふうに進めていくのかというロードマップのようなものをまとめながら、最終的な目標値、評価に向けて戦略的に進めていくという計画を作ってみてもよいのではないかという指摘が出た。</p>

委員	<p>想像以上にたくさん施策がある。外国人はこういうものがあると理解されているのか、また、日本人にも役立つこともあるのではないかと感じる。</p>
委員長	<p>そもそも新城市でこういった取組が行われていることを外国人に知っていただくだけでも、外国人としては歓迎されている、自分がこのまちに暮らすことに対してこんなにしてくれていると感ずることができる。</p> <p>そういったことを外国人にも見えるようにするということで、このプランは多言語にして外国人も見れるようにするのか。</p>
事務局	<p>プランの冊子は日本語で作るが、その概要版を作る際には多言語化することも考えている。</p>
委員長	<p>概要版を外国人にも日本人にも届けられるようにすることで、どちらにも整理された情報を発信し、理解してもらえというメリットがある。日本人にも外国人にもこういうことが進んでいるということを知ってもらうことが大切。</p>
委員	<p>外国人に係るトラブルとしてよく聞くのがごみの分別に関すること。ごみの分別チラシには翻訳版があり、日本人と同じように外国人転入者にも配られている。ただ、地域の日本人はそのように外国人にもごみ分別チラシの多言語版が配られていることを知らず、外国人住民はごみ分別のことを全然知らないんでしょというふうに思っている方が実は多いと感じる。</p> <p>市でせっかく色々な事業を実施しているため、外国人は実際にチラシ等を受け取って知る機会があるが、日本人にも知ってもらう必要があるのではないかと感じる。新城市は田舎で、よい意味で世話好きな人が多い。市でそういった多言語版チラシのようなものを配布していることを知れば、知り合いになった外国人の代わりに市役所に行ってもらってくるよという方も多いのではないかと感じる。</p> <p>そういう意味では、プランについて市民に広く周知する必要があると感じる。</p>
委員長	<p>様々な取組がある中で、転入する際にはそれに触れる機会があるが、長く住んでいる方はその存在を知らないという問題点があるというところで、お出かけ講座等で地域の皆さんに外国人を支援するツールがあるということ自体を知っていただくことで、いざトラブルがあったときに市に相談もしやすくなると思う。</p> <p>自分は多文化防災ということで、避難所における多文化共生の推進もやっている。そのような中でよく聞くのが、防災倉庫には多言語に対応したものが準備されていても、避難所の運営をする方がその存在を知らずに現場で活用されないということ。</p> <p>様々なツールがしっかりと活用されるように周知していくことも大事な</p>

	視点であると感じる。
委員	先ほどごみトラブルということが出たが、道路や他人の敷地にごみを捨てる人がいれば、日本人・外国人関係なく、不法投棄として事件化していくと感じた。
委員長	正しい情報がしっかりと伝わっていることが、生活上のトラブルを減らすことに大きく影響すると思う。
委員	自分を日本で32年間育ててくれたのは外国人で、社会に出てからわからないことがたくさんあったので色々な方に聞いた。ただ、皆さん違う意見があったり、違うことを言われたりする。税金、家の購入、保育園、学校等日本では全てのことにルールがあるからこそやりやすく、それぞれ自分のスタイルでやっていける。ただ、本音で言うと、中学を卒業して仕事をしながら高校に通っていたときに、日本は本当に厳しい国だと思った。 今は子どもたちが生まれて、日本で育っていく中で、どうしていくべきかを自分も学ばなければいけないんだと思い知らされている。
委員長	日本において、ルールの多さ・厳しさというところが最初にハードルとして感じる事だと思う。例えば、町内会に入るといふことにどういふメリットがあるのか、お金を払うことに対して何に使われるものなのかという質問を外国人から受けることがたくさんある。これはルールだから、こういうものだからと言ってしまうとびっくりして、自分たちだけ奪われているような気持ちになってしまうことがあると思うが、ルールの背景にあることについても説明されると納得できることはたくさんある。そういったものを多言語で、自分のわかる言語で説明されることにより、様々なすれ違いを解消してくれると思う。 今回のプランでも、様々な分野においてそういう取組はされていくと思うため、その重要性について意見であったように感じる。

5 その他

(1) 今後の会議日程について

プラン施行までのスケジュール概要について説明した。

《次回会議日程》

日時：令和5年10月3日（火）午前9時30分から11時30分まで

場所：市役所本庁舎4階会議室

閉会